

第111回小金井市新型コロナウイルス感染症対策本部会議録	日時	令和4年2月22日（火） 9：40～10：07	場所	WEB
出席者	西岡市長、住野副市長、大熊教育長、天野企画財政部長、高橋庁舎建設等担当部長、加藤総務部長、西田市民部長、中谷福祉保健部長、大澤子ども家庭部長、若藤都市整備部長、大津学校教育部長、藤本生涯学習部長、柿崎環境部長、北村議会事務局長、梅原企画政策課長、石原健康課長、堤新型コロナウイルス感染症対策担当課長、廣田広報秘書課長、宮奈地域安全課長、穂山地域安全係長			
付議事項	1 新型コロナウイルスワクチン接種について 2 各部連絡事項			
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・小児初回接種（5～11歳接種）の優先予約について ・オミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策について（抄） ・PSSと東京農工大学と小金井市 農工大キャンパスにて東京都PCR等検査無料化事業を開始 			
<p>（進行：福祉保健部長） （市長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月6日までのまん延防止等重点措置が解除となるのか？さらに延長となるのか？それ以外のことになるのか、今のところまだわからない状況である。 ・オミクロン株はピークを超えたと言う専門家からのご指摘もあり、都知事からも同様の趣旨の発言もあった。 ・感染者数は依然として高く、予断の許さない状況にある。 ・市内の感染者数は、2月21日（月）時点で累計5,372人、うち4,379人が退院（治癒）されており、993人が療養中となっている。療養者の大半が自宅療養とされ、相応の濃厚接触者も自宅待機されている。 ・生活支援について細やかな対応を引き続きよろしくお願ひしたい。 ・3回目のワクチン接種を終えた人は、2月20日（日）時点で27,975人となり、1週間で9,249人が接種したことになり、18歳以上の25.6%が3回目を終えている。医師会、薬剤師会等の関係機関と緊密に連携して、迅速な接種に取り組んでいきたい。またご協力いただいている方々へ感謝したい。 ・3月12日からは5歳から11歳の小児接種が開始される。接種券は7,600人発送済で、3月3日から予約開始となる。3月1日と2日には基礎疾患がある子供の優先予約を設ける。優先予約枠を設けるという適切かつ速やか検討して頂いた担当の皆様方には本当に感謝申し上げたい。 ・接種券の方には、この優先予約の趣旨がまだ反映できていないということだが、市報やホームページ、twitter等々、該当する方々に確実に情報が届くように、情報発信をお願ひしたいと思いますし、私自身も努力して参りたい。 ・市職員の感染者が増加しており、迅速な対応をお願ひしたい。 				

(健康課長)

- ・小児向けのワクチン接種の優先予約にご了承お願いしたい。
- ・ワクチンチームにも感染が及んでおり、応援体制については、福祉保健部内を第一に、まかないきれないところは、今までコロナ担当やっていた方などにスポット的に応援をいただきながら、対応を行っていきたいと思うのでよろしくお願いします

(市長)

- ・健康課長から報告がありましたように、ワクチン担当職員にも新型コロナウイルスの陽性者が判明したと言うことだが、ワクチン接種事業は小金井市の最優先事業と位置づけており、この事業を停滞させるわけにはいかない。従って前任者として頑張っていた職員の方々にスポット的にご尽力いただくことや、福祉保健部内での緊急対応など、速やかな対応をとっていただく準備をしていただき、ありがとうございました。
- ・大変重要な市民の命と健康、地域の医療提供体制を守るための大事な事業であるため、どうかご理解をいただきたい。
- ・また、職員を派遣していただける課長や担当部長への感謝を申し上げたい。ありがとうございます。このようなことがこれからも発生するので、どうか適宜適切に臨機応変に、そしてスピード感を持って対応していきたいと思っているので、引き続き何卒ご理解ご協力の程、よろしくお願いを申し上げます。
- ・ワクチン接種に関しては、職員もブースター接種を行っていると思います。職場においては、副反応がきつくてどうしても休まざるを得ないというような状況もあるかと思うので、その点も部長課長よくマネジメントしていただきたい。

2 各部連絡事項

(健康課長)

- ・オミクロン株の特徴を踏まえた感染防止策についてである。東京都のまん延防止等重点措置の中で事業者向けのお願い事項について、さらに詳しい資料の方を示された。職場での感染対策の参考にもなるかと思い、資料として配布した。
- ・二番目の資料は、東京農工大学とプレジジョンシステムサイエンス株式会社、小金井市の方で、昨日から農工大学の南西の角地のところで無症状者の無料 PCR 検査の方が開始されたというものである。事前にプレスリリースしたものを共有の為に配布した。
- ・期間中、農工大の入試などで検査ができない5日間を除いて、土曜日、日曜日、祝祭日についても朝9時から午後3時30分まで、一日あたり100名の検査能力にて開設している。
- ・開設期間は3月18日金曜日までになっている。こちらも予約制ではなくて当日の先着順のため、現地に行っていて、100名に達してなければ検査が受けられるという位置づけになっている。
- ・これは、農工大の研究の成果である自動のPCR検査システムを活用した検査という

ことで、農工大の治験でも活用されているシステムになっている。

(総務部長)

- ・職員の陽性者は、令和3年12月までは合計19人、先月1月は9人、2月は22日時点で28人となっているほか、常時25人前後ぐらいの濃厚接触の関係で休んでいる者がいる。
- ・基本的には職場におけるクラスターは発生していないが、陽性者であったり、濃厚接触者であったりが同時に発生することによって、その職場で複数人が休まざるを得ないという状況が散見されるところがある。
- ・濃厚接触という形で症状がなく、自宅でテレワークできるような業務であれば、部長用PCを持って帰って業務出来るよう情報システム課で柔軟な対応が可能である。
- ・応援職員については健康課長からも話があったが、差し当たり本日と木曜日の午前中だけ以前コロナの担当していた総務課職員を応援派遣した。

(市長)

- ・農工大関係のPCR検査は、医師会にもしっかり情報提供よろしくお願ひしたい。

(教育長)

- ・今、国全体としては、感染状況は少し下がり傾向にあるかもしれないが、小金井市は今がピークではないかと感じている。実は学校もそうであり、かなりの感染者を出している。
- ・コロナワクチン接種も担当課長及び担当職員が頑張ってくれているところだが、もし担当課長が感染した場合、市民全体に大きな影響を与えかねないと考えている。もちろんそんなことがあってはいけませんが、そういう時に備えて、全庁を上げて、その支援体制を整えるということが重要であると考えている。
- ・ワクチン以外のところでも絶対止めてはならない業務、いわゆるBCPについて、本当に考えていかなければいけないと思う。

(副市長)

- ・バックアップ体制はどうしても必要と考える。特定の人というのにも必要になるが、いろんな人が経験値を積んでいかないと、なかなかこういうものは進んでいかないと思う。
- ・担当課長のようなキーマンになっている人たちについてのケアも当然必要になってくる。やっぱり全庁でカバーしないといけない部分であるため、みんなで考えていくようにしたい。
- ・今後、5歳～11歳のワクチン接種が進展し、その後の感染状況は見通せないが、やっぱり今打てる手を打っておかないといけない。

(以上)